

# BONJOUR

ボンジュール  
rêve - ゆめ -

ボンジュール



vol.30

2017.6.1 発行

ASSOCIATION NIIGATA-FRANCE

- 発行 新潟・フランス協会
- 新潟市中央区東堀通6-1038(丸屋本店内)
- TEL・FAX 025(225)2424
- http://anfrance.com/



## 会長就任のご挨拶

新潟・フランス協会 会長 高木 裕

さる4月9日の新潟・フランス協会の定時総会におきまして、これまでの本間彌会長の後任として会長に選任されました高木でござります。本間彌氏からは、協会の代表理事として、これまでどおり支えてくださるとのありがたいお言葉を頂き、大変心強く思い、それであればと承った次第であります。

新潟・フランス協会は、平成3年（1991）2月に設立されましたが、設立前に、故松崎名誉会長（初代新潟・フランス協会会長）にお誘いを受け、打ち合わせの会議に参加したことを昨日のことのように思いだします。私と松崎先生との出会いは、新潟大学人文学部文学科（仏文専攻）の学生時代に遡ります。その後、幾年月を経て、ご縁があって、松崎先生の後任として、私が新潟大学人文学部に赴任したのは昭和も最後の年でした。退官後、先生は初代会長として、新潟・フランス協会の発展に尽力されましたが、不肖の弟子である私も、退官後、先生がたどられた道を同じように歩み始めたと思うと、感慨もひとしおです。

さて、これまでの新潟・フランス協会の活動は、本間彌代表理事が果たされた役割を抜き

にしては語れません。新潟とフランスにかかる市民レベルのさまざまな交流活動の中心にいつも本間代表がおられました。本間氏は協会発足以来、その舵取り役を果たしてこられました。私自身は微力ではありますが、今後、代表理事として残されることになった本間氏のご指導を仰ぎながら、新潟・フランス協会の発展と充実に尽力して参る所存ですので、何卒よろしくお願いいたします。

新潟・フランス協会は、会員の皆様のお一人お一人のお力により、おかげさまで、大きく発展して参りました。ナントのアトランティック・ジャポン協会会員の皆様との交流、新潟とナントにおける相互訪問と相互交流、さまざまなフランスに関するイベントの開催、パリ支部の会員の皆様との交流、フランス文化の普及活動を多方面において展開するなど、このすべてが、会員の皆様のご理解とご支援により、稔りあるものとなりました。当協会の活発な交流活動が新潟市とナント市の姉妹都市提携を生み、新潟大学とナント大学の大学間交流にもつながりました。厚く感謝申し上げますとともに、引き続き、どうかご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



## ラ・フォル・ジュルネ「キッズプログラム」 踊ろうよ!人形と♪

### 萱場和彰

ナント市から学んだラ・フォル・ジュルネでキッズプログラムを当会が担当して4回目になります。今年私は監督という大役を仰せつかりました。従来の人形を使わせて頂くこと、今年のテーマ「ダンス」に併せて人形と一緒に歌って踊るというコンセプトで省エネでやりましょうという予定でした。

ところが練習が始まると皆さんの自発的なアイデアを沢山頂いて演じる方も、観る方も満足して頂けたのではないかと思います。当協会の会員のただならぬ経歴に感銘を受けました。またケルト音楽を演奏する「クラック」との共演もとても楽しいものでした。秋以降の例会でクラックの方々に演奏をしてもらう機会を設けたいと想いますのでご期待ください。

新潟らしい開催を考えて「ルネ・マルタン プロデュースの極意」という本を読んで方針を考えてみました。

キーワードは好奇心、心の豊かさ、異なるものの間に架け橋、聴衆と音楽の間の関係を変革、変革のベースは教育、こちらから音を取りに行く、など初心に返って取り組みました。



### 白井ゆみ

過去三年間の積み重ねでもはや素人の域を脱していたメンバーに、りゅーとぴあ専属バレエ団ノイズム担当の川口さんが加わって下さったのですから鬼に金棒、心配はありませんでした。鬼の衣装や子供用楽器、音符の旗(?)など多数作って盛り上げて下さった鬼の奥さん、歌の指導のみならずストレッチまで教えて下さった歌姫小山瑠美子さん、オーケストラとの共演という大仕事の前に時間をさいてピアノを弾いてくださった小黒亜紀さん、そして細かいお願ひにいつも気持ちよく対応してくださいました。

監督の萱場さん、助監督のゆきこさんの(^^♪に会えるのが楽しみな練習の日々でした。

## ラ・フォル・ジュルネ「キッズプログラム」の舞台裏



A

初回の打合せ風景。みんなでアイディアを出しているところ。



B

ケルト音楽バンドクラックの参加でまたヨーロッパの旅先が増えました。



C

そもそも最初のアイディアは高木会長の「アヴィニョンの橋の上で」をみんなで歌って踊るというはどうでしょうか?からで、そこから多くのアイディアが拡がっていきました。



D

フニクリ・フニクラでは鬼のパンツのアイディアが実現。忙しい中、当日特別参加の小黒さん。



E

今年も歌姫のソロは圧巻でした。



F

人形の振付にりゅーとぴあの川口さんが参加。プロの参加は目から鱗で、厳しい中にも人形担当のスタッフの動きが変わっていくのがわかります。



G

合唱チームも小山さんの本格的な指導でどんどんうまくなっています。



H

細かい振付の指導で、人形の動きも良くなってきました。



I

最後の「オー・シャンゼリゼ」では「ガラガラ」を自作して、子供たちに配布。



J

クラックの演奏はスコットランドやアイルランド、フランスのブルターニュ地方に伝わるケルト音楽です。珍しい楽器に子供たちも興味津々で、プログラムが終了しても、バンドの近くに行っていろいろ聞いていました。

# ミッテランのこと

NHK 鈴木 仁

フランス政治を長年取材し、歴代大統領や大統領経験者と間近に接する機会に恵まれたが、なかでも印象に残っているのが、ミッテラン大統領（在任1981年～95年）だ。

最初のパリ勤務だった90年代前半はすでにミッテラン時代の終盤を迎えていたが、大統領として単一通貨「ユーロ」の創設を盛り込んだマーストリヒト条約の批准という大仕事に文字通り「鬼気迫る」決意で取り組んでいた。

条約に対しては保守派を中心に「フランスの主権が侵される」として反対する声も強かったが、ミッテランは自らの身体を蝕むガンを隠しながら（結果的に退任後間もなく彼の命を奪ったガンであった）条約批准を強く訴え続けた。その際彼がしばしば口にした「フランスは我々の『祖国』だが、欧州は我々の『未来』である」という言葉が強く心に残っている。

そのような「綺麗ごと」だけではなく、冷戦の終結によって現実味を帯びてきた「統一ドイツ」が、欧州において突出するのを防ぐため、「統一」と引き換えに通貨マルク



を捨てさせる思惑があったとも見られているが、そうした「謀（はかりごと）」を美辞麗句に包み込む権謀術数も含め、今の欧州には見られない強力な指導者と言えるだろう。

ミッテランとはその翌年、エリゼ宮で約一時間インタビューする機会に恵まれた。

私も30歳を超えたばかりで、「歴史上の人物」とも言える老大統領を前に柄にもなく（？）あがったのを覚えている。

「つまらないインタビューだとサッサと席を立ってしまう」気難しさを聞いていただけに、なんとか放送が成立するように必死だったが、超大国が世界を支配する「一国行動主義」の対抗軸としての「多国間主義」を主導するという、今も通じるフランス外交の柱を繰り返し強調していたことが印象に残っている。

ミッテランは、「大の日本好き」で知られながら実は日本料理が苦手だった後任のシラク大統領と対照的に、刺身など日本食が大好きだった。行き付けの庶民的な和食レストランも突き止めたものの、日本料理と共に食することはついに果たせぬ「夢」に終わったことが、返す返す残念である。



## 魔法にかかるまで、あと5分

フィリップ・ドゥクフレ／カンパニーDCA  
『CONTACT-コンタクト』公演手記



Arnold Groeschel

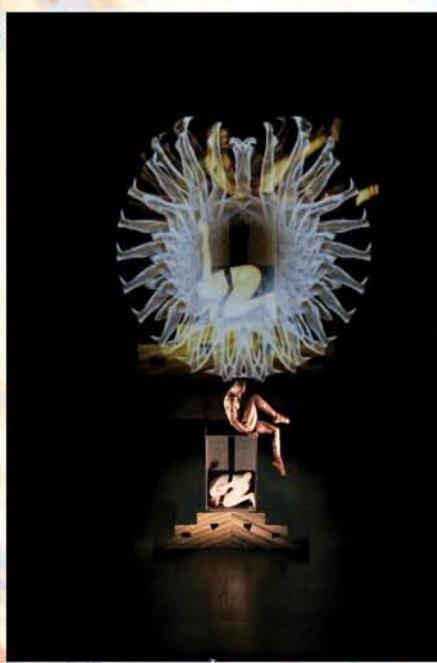
りゅーとぴあ舞踊企画課 川口眞人

2016年10月22日・23日、りゅーとぴあ劇場は迷宮と化した。フィリップ・ドゥクフレという男の仕業だ。80年代のスーザンダンスの黎明期にデビューし、フランス革命200周年記念祭パレード、アルベールヴィル冬季オリンピックのセレモニー、パリのキャバレーCRAZY HORSEの演出などを手掛ける、フランスが誇る才能だ。彼の最新作『CONTACT-コンタクト』が新潟にやって来たのだ。

バウハウスを想起させる幾何学に制御された空間。そこに躍動する肌の色の違うダンサー。Nosfellが奏でる無国籍でエモーショナルな音楽。ゲーテの『ファウスト』をモチーフにした現代人のささやかな欲望のストーリー。ドゥクフレ自身が愛したアメリカンミュージカルへのオマージュ。万華鏡のような映像美。全てが完成された、極上のイリュージョン・スペクタクル。きっと忘れないであろう、煌めく時間。カーテンコールでの舞台と客席の一体感、それは熱かった！

私がこの作品を通じて伝えたかったこと、それは「文化とは多様性に対する寛容力である」ということでした。彼がパリ近郊の街サン=ドニにスタジオを構えたのは、80年代の都市の荒廃政策にアートが活用されたという背景がありました。そこで彼が実践して来たのは、アラブやスラブなどの異文化と、古き良きフランスの文化との融合でした。そして、サン=ドニは2015年同時多発テロの標的となりました。

ひとりのアーティストが世界を俯瞰し、人間にとって大切な何かを私たちに見せてくれる。魔法にかかるまで、あと5分。



Arnold Groeschel

## フランス文学講座とゼミについて

高木 裕

昨年6月、新潟・フランス協会のプチ・サロンで「『星の王子様』を読む」と題したお話を、9月からは3回連続で「フランス文学講座」で「恋愛」をテーマにお話をさせて頂きました。後者では、時代背景をもとに、「恋愛」という表現形態が成立した中世から、20世紀初頭の恋愛模様まで駆け足でたどりました。この準備はなかなか楽しい作業で、若い頃に読んだ「名作」をしっかりと読み直すことができました。



今回の講座の際に、フランス文学の特徴は何ですかと聞かれたことがあります。私は、「その一つは人間の情念と精神の探求」にあるとお答えしました。たとえば、今回の講座のテーマ「恋愛」から例を引きますと、恋愛小説における心理分析の「緻密さ」をあげることができます。フランス語で、*roman d'analyse*という言い方があります。直訳すると「分析小説」ですが、人間性を洞察し、人間心理を微に入り、細を穿って描ききる「心理分析小説」を意味します。これは、『クレーヴの奥方』を嚆矢とするフランス文学の伝統です。たとえば、講座で取りあげたアベ・ブレヴォーの『マノン・レスコー』、バンジャマン・コンスタンの『アドルフ』、ギュスターヴ・フローベールの『ボヴァリー夫人』などはまさにこの伝統に位置づけることができます。

18世紀の『マノン・レスコー』は、貴族のシュバリエ・デ・グリューが魔性の女マノンの魅力の虜となり、彼女に翻弄されながらも新大陸アメリカの砂漠まで付き従い、そこで彼女の最期を看取るお話です。何度も裏切られても、デ・グリューの情熱は冷めることなく、マノンとの恋は、死によってしか終わりを迎えない、まさに「宿命の恋」amour fatalです。

いっぽうで、冷めた恋を執拗に描く小説もあります。19世紀初頭の小説『アドルフ』では、エレノールと別れようとしながら、それを言葉に出せない貴族の青年アドルフの心理的葛藤の描写が延々と続きます。主人公の愛情表現の微妙な変化を克明に描いているところは、作家コンスタンの体験もあるのでしょうか、そこには恐ろしいまでの冷徹な自己分析の視線を感じます。

『ボヴァリー夫人』(1857年刊)は、凡庸な医師と結婚したエマが、浮気をしながら転落し、ついには服毒自殺をする話です。フローベールは内面のつぶやきを映し出す新しい文体を駆使し、少女時代にロマン主義的な社交界の夢を膨らませ、現実の彼方に見果てぬ夢を追い求めるエマの心の襞を写実的に描ききっています。

さて、今年は、「高木ゼミ」を開講してはどうかというお話を頂きました。6月から、月一回のペースで始めてまいります。おおよそですが、今回は恋愛のテーマを離れ、毎回テーマを変えながら、食文化、パリの歴史、ジャポニズム、シャンソン、絵画など、フランス文化の諸相についてお話しできればと考えています。肩の凝らない内容ですので、ご関心がおありの向きは、ぜひご参加ください。

### マルク・ヴァレット氏講演会

## 「ナント市に学ぶまちづくり」報告

駒形 千夏

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業の一環として、2016年9月17日（土）に新潟大学駅南キャンパスときめいにて「オープンフォーラムNIIGATA COC+」が開催され、その基調講演として、ナント市からマルク・ヴァレット氏をお招きし、「フランス・ナント市に学ぶ地域創生と国際展開」と題して講演していただきました。

マルク・ヴァレット氏は、フランス国内各地で都市計画プロジェクトに携わったのち、1997年にナント市で都市開発NPO「社会都市開発プロフェッショナル相互ネットワーク（IRDSU）」を立ち上げ、その代表を務めています。ここではまちづくりプロジェクトの情報交換プラットフォームを整備

し、若手の育成にも力を入れています。こうしたご経験から、ナント市のまちづくり戦略についてお話ししていただきました。

ナント市は、周辺の23自治体およびサン・ナゼール市とともに、豊かな一大経済圏を形成しています。現在の人口は80万人ですが、2030年には100万人にまで増加すると見込まれています。その要因は、航空造船業や文化芸術産業が好調で、経済圏全体の雇用数の伸び率が全国平均の5倍であること、好調な産業に従事する若者を育成するための高等教育機関が日々と整備されていること、また、エロー前市長のもとで始められた強力な文化観光政策によって住民の街への愛着と誇りを育てているこ



と、などが紹介されました。

このオープンフォーラムには、新潟・フランス協会から会長、副会長、事務局長を始めとして多くの皆様方にご参加いただきました。また、フォーラム終了後には、ANF交流サロンにて、ヴァレット氏および同行して来日されたお嬢さんのカミーユさんを招いて、心のこもった歓迎会を開いていただきました。お二人は美味しい新潟のお弁当と会員の皆様お手製の副菜に舌鼓を打っておられました。皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

### 株 アイト商店

〒951-8068 新潟市中央区上大川前通10-1870  
TEL 025-228-2337 FAX 025-228-7715



洋菓子材料の総合商社  
**池伝株式会社**

〒950-0863 新潟市東区卸新町2-848-15  
TEL 025-275-5136 FAX 025-275-5139



ISHIKAWA  
**株式会社イシカワ**

〒956-0801 新潟市秋葉区大蔵738-1  
TEL 0250-22-2000



**Uoshoku**  
(株)ウオショク

〒950-0951 新潟市中央区鳥屋野450-1  
TEL 025-283-7288 FAX 025-283-7218

**ANA CROWNE PLAZA NIIGATA**  
〒950-8531 新潟市中央区万代5-11-20  
TEL 025-245-3333 FAX 025-243-0493

学校法人 エイシンカレッジ  
**シェフパティシエ専門学校**

〒950-0911 新潟市中央区笹口2-9-1  
TEL 025-242-0025 FAX 025-242-0026

酒類  
**株 小 川**

〒951-8041 新潟市中央区本間町2-2597  
TEL 025-228-1631 FAX 025-222-1051

**(有)小川屋**

〒951-8063 新潟市中央区古町5  
TEL 025-229-0111 FAX 025-222-6831

# ナント市代表団歓迎会

総務委員長 大倉 美智子



新潟市が政令都市10周年を記念してナント市から代表団をお迎えし、2017年4月9日に開催された当協会・定時総会後に新潟グランドホテル(当協会法人会員)にて歓迎会を開催致しました。

パリ支部会員の成嶋志保さんによるピアノ演奏は素晴らしく、演奏後、拍手が沸き起る前に、うつとりし過ぎて一瞬、空白の時間があったかのように感じました。

ナント市からは高木新会長と、本間彌前会長(代表理事)に記念品が贈られ、ギタリストのマニュエル・アドノー氏よりギター演奏のプレゼントをして頂きました。同氏に、和服姿の美人若手会員より花束を贈呈させていただくと、代表団の方々がさかんに写真を撮っておられました。

本間前会長が、ご挨拶の中でナント市との交流を最初から支え

て下さった、ナント市国際部のクリスティーヌ・ルナールさんへ謝辞を述べられた際

に、とても感激して下さった様子が胸に響きました。

昨年、ナント市で開催されました鈴木孝枝写真展、三味線の小林史佳さんと、高橋竹育さん、成嶋志保さんジョイントコンサート、鈴木宗裕さんと門下による御点前という三つのイベント・ツアーに参加された会員のほとんどが歓迎会に集い、再会を喜び合われているご様子に、継続は力なりと思いを新たに致しました。

2017年4月9日(日)

## Petit Salon 2017年3月12日(日) プチサロンに参加して

斎藤 賴子

フランスと聞くと、一つにはカフェを連想します。人々が集うカフェから見える「フランスのいま」を楽しみに参加しました。

講師の坂本さんはパリでインタビューした動画や写真を用意してくれました。パリジェンヌ、学生、マダム、サラリーマン…男女を問わず、幅広い世代に同じ質問を投げ掛けた内容が興味深く、面白く感じました。

例えば、いつカフェに行くか。どれくらいの頻度か。誰と、どんな目的で。何を注文するか、などなど。その答えは私たち日本人と大差なく、そのこと自体が驚きでした。

あるパリジェンヌは「シャンパンはめったに注文しないわ。高いもの!」だとか。まさしく一緒!また、あるサラリーマンは商談にカフェ

を使い、仕事の話が終わればざっくばらんに飲んでいるとも。一日に何度もカフェを訪れるという人もいました。

知人と出掛けたり、一人で行ったり、偶然隣に座った知らない者同士で話が盛り上がったり。日本人と大差がないとはいえ、やはりフランス人にとってのカフェとは、アンフォーマルな公共的なものであり、職場でも自宅でもない、心地の良い「第三の居場所」なのだと実感しました。



## フランス語スピーチコンテスト

脇本 裕一

新潟・フランス協会会員の脇本裕一さんが、第9回フランス語スピーチコンテストで優勝されました。おめでとうございます。



Mesdames et Messieurs, enchanté !

脇本裕一と申します。新潟伊勢丹でワインの販売を担当しております。2月18日に行われた、第9回新潟フランス語スピーチコンテスト「フリースピーチ部門」で優勝する事ができ、大変嬉しく思っております。

スピーチのテーマは「私とワインとの関わり」についてでした。仮検2級に合格した事をきっかけに、3年前に今の仕事を始めるまで

全くワインを飲む事がなかったのですが、ある日飲んだ1杯のワインに感動し、今では毎日飲みたいと思うようになりました。去年の秋には念願のブルゴーニュへ!

1杯のワインが、私に多くの出会いと、楽しい時間をもたらしてくれました。その縁に感謝しつつ、これからもフランス語とワインの世界を楽しんでいきたいと思います。店頭で見かけましたら気軽にお声がけ下さいね!

### ◆ 片山商事株式会社

〒950-0868 新潟市東区紫竹卸新町1927-24  
TEL 025-274-1160 FAX 025-274-1285

**K力ヤバ**

〒950-0916 新潟市中央区米山1-11-3  
エントリービル2F  
TEL 025-242-1577 FAX 025-242-1573

**KIRIN**

キリンビールマーケティング㈱新潟支社  
〒950-8530  
新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル4F  
TEL 025-245-2321 FAX 025-241-6381

**gram3**

株式会社グラムスリー  
〒105-0013 東京都港区浜松町2-2-6 大塚ビル3階  
TEL 03-6402-0303 FAX 03-6402-0302

### JTB 関東

法人営業部 〒951-8063 新潟市中央区古町通6番町976  
TEL 025-224-2201 FAX 025-229-5775  
新潟第一生命戸田建設共同ビル3F  
TEL 025-255-5101 FAX 025-248-7687

**リラクゾート  
hotel 万代シルバーホテル**

〒950-8533 新潟市中央区万代1-3-30  
TEL 025-243-3711 FAX 025-243-3720

**J risk management**

J risk management Co.,Ltd.  
(株)Jリスクマネージメント  
〒951-8053 新潟市中央区川端町2-12-1  
TEL 025-222-2025 FAX 025-222-2026

### 早福酒食品店

〒951-8162 新潟市中央区関屋本村町2-305  
TEL 025-266-8101 FAX 025-266-8105

# バスツアー

## “モネ展”鑑賞&古民家見学

2016.7/30sat バスツアータイムスケジュール

新潟出発 → ①新潟県立近代美術館でモネ展を見学 → ②越後まつだい里山食堂で食事 → ③イエローハウスにてカール・ベンクス氏の講演 → ④カール・ベンクス氏の古民家をちょっと見学 → 道の駅まつだいふるさと会館にて休憩 → 新潟で解散



### 新潟の思い出

沼口 ゆず (ナント在住)

小さい頃から新潟をテーマにしたイベントを時々見に行って、新潟・フランス協会の皆さんにもお会いしたことがあり、是非いちど新潟に行ってみたいと思っていたが、去年の夏やっと実現しました。

バス旅行に誘っていただいたり、佐渡を案内していただいたり、美味しいご飯をいただきたり、色々な方とお話ができる、時々懐かしく思い出しています。

バスの中で、皆さんがワインを飲んでいるのを見て、「ここは日本だ」と実感しました。フランスでは、バスや電車の中でアルコールを飲むことはあまりありません。とても楽しそうで、私もお酒が飲めるようになつたらまた参加したいと思いました。

お昼の野菜バイキングもそれぞれの野菜の味が良くわかる味付けで何度もおかわりしたり、その時だけはダイエットのことを忘れました。

佐渡では、大倉美智子さんが一緒に来てくださり、田中希世子さんのご両親が案

内してくださいました。能舞台の上演も見ることができました。古い文化もあり、景色も様々で、海もきれいで、ハワイにも行ってみたいけど佐渡にもまた行きたいと迷っています。本間会長には北方文化博物館に連れて行っていただきました。詳しい説明をしてくださったので、昔のお金持ちの農家の建物に色々な工夫がなされていることや歴史も学ぶことができました。

皆さんがナントにいらっしゃる時は、ご案内できるようにナントの歴史を勉強しておきます。本当にありがとうございました。

### お料理講座

2016.10.3㈪

## チーズソムリエ 三膳正俊先生のワインを楽しむチーズのお料理講座



こんにちは、チーズの料理セミナーを担当している三膳です。

上高地のホテルでシニアソムリエとして長年働いていましたが、地元の新潟に戻り新潟伊勢丹のワイン売り場で働いています。ホテルでのソムリエの仕事としてワインの他にチーズや葉巻の知識

が必要で資格を取りました。

フランス協会よりチーズアドバイザーとしてチーズ料理のセミナーを開いて欲しいとお話をあり、チーズ料理の美味しさを広げていければとお受けしました。



### 料理のレシピ

#### カマンベールを丸ごと使ったチーズフォンデュ



- ① カマンベール上部の皮のふちを5mmほど残して切り取る。
- ② そこにおろしにんにく(チューブで可)と白ワインをティースプーン1杯入れる。
- ③ 電子レンジで加熱する(様子を見ながら全体が柔らかくなるまで約1~2分)
- ④ ホットプレートでチーズを温めながらお好きな野菜や食材にチーズを絡めながらお召し上りください。野菜や食材もホットプレートに載せておくと冷めません。
- ⑤ 残った皮と剥がした上部の皮も食べられます。ホットプレートの温度を上げて焼くとカリカリになって美味しいですよ。

このレシピはフォンデュ鍋を用意しなくて済むし、皮まで食べるの後片付けも簡単で気軽にチーズフォンデュが食べられます。鍋にこびりついたチーズの後片付けは大変なんですよ。

<b>dip</b> 株式会社第一印刷 〒950-8724 新潟市中央区和合町2丁目4番18号 第一和合ビル1F TEL 025-382-7400 FAX 025-382-7415	<b>(株)玉川堂</b> 〒959-1244 燕市中央通2-2-21 TEL 0256-62-2015 FAX 0256-64-5945	<b>塙田牛乳</b> 〒950-0213 新潟市江南区木津工業団地2-1 TEL 025-385-3911 FAX 025-385-4126	<b>(有)ツルマキ薬局</b> 〒955-0151 三条市荻原1616-1 TEL 0256-46-2174 FAX 0256-46-5328
<b>(株)天朝閣 五十嵐邸ガーデン</b> 〒959-1944 阿賀野市金屋340-5 TEL 0250-63-2100 FAX 0250-63-1600	<b>(医)とくなが女性クリニック</b> 〒950-0932 新潟市中央区長潟837-1 TEL 025-286-4103 FAX 025-286-4107	<b>ウォーターフロント&amp;ナイスビュー 新潟グランドホテル</b> 〒951-8052 新潟市中央区下大川前通3-2230 TEL 025-228-6111 FAX 025-228-0735	<b>(株)新潟スカイツーリスト</b> 〒950-0909 新潟市中央区八千代1-2-29 TEL 025-243-3177 FAX 025-243-0867

# 国内フランス協会の紹介

## 長野

長野日仏協会 会長 滝沢 忠義

19世紀末のウルグアイ生まれのフランス人で、「マルドロールの歌」という散文詩集を出版して、パリコミューンの最中に24歳の若さで孤独のうちに亡くなった詩人がいた。

筆名はロートレアモン、本名はイジドール・デュカス。シュルレアリズムの元祖ともいわれ、難解な散文詩を書いて、それがそっくり夢のようであり、文字で記した絵画のような一面もある。ある批評家によれば、詩集中に182種類の動物があり、神に反抗する悪の連続だと評する向きもある。ちょうど精神分析を唱え、リビドーなどの重要性に着目したフロイトと同時期に、彼はフランスの文壇からはほとんど問題視されずに潜在意識から生まれた詩を書いていた。夢を定着させたような、文字で描いた絵のようなイマジナシヨンの豊かな散文詩であった。

20世紀になって、彼の存在を発見したのは、ブルトン、アラゴン、エリュアルール、スーザーなどの詩人たちで、のちにクレジオも1冊の本で、ロートレアモンにオマージュを捧げている。夢について考えるとき、「マルドロールの歌」を継承して、ダリやマグリット、ピカソなどシュルレアリストたちの仕事が現代の人間生活に暗々裏に大きな影響を及ぼしているのも事実だ。たしかに夢は虚ろなものではなく、人間の行動に深くかかわっている。ベルリンの壁が崩壊した時、誰かが言つた。シュルレアリスト（超現実的）な展開だと。

## 福島

福島日仏協会 専務理事  
石川 一十三

フランス名誉領事萱場氏が国家功労勲章オフィシエに叙されましたことを心からお喜び申し上げます。フランス大使館広報によりますと、萱場氏はフランス名誉領事に就任され、20年という長きに渡り、新潟市の姉妹都市であるフランスのナント市や、ボルドー大学との交流を積極的に継続的に行い活躍されました。また新潟・フランス協会の事務局長として、フランスの芸術文化団体の日本への招聘や、フランス人学生の援助などにも取り組まれています。この長年の偉大なご功績に対して贈られるフランス大使館公邸での叙勲式に、私までお招き頂き、光栄に存じ厚く感謝申しあげます。

私は福島日仏協会の事務局を勤めておりますが、この仕事は実際に携わってみないとその大変さや苦労がわからないと思います。また萱場氏はフランス名誉領事のお仕事に加えてご自分のお仕事をお持ちですから、より一層大変だったことと存じます。今回この勲章を叙されたのも、萱場氏の真撃でご誠実なお人柄、またご家族のご協力もあったからと存じます。

福島日仏協会はフランス語会話教室や、料理教室、コンサートなどを行い、時折り国内の日仏協会との交流会（過去に仙台、鎌倉、新潟、長野を訪ねました）も行っております。また、ほかに会報 *Île de Bonheur* も発行しておりますが、このような事業を展開し、継続的に運営していくことはかなり大変なことがあります。福島日仏協会は、新潟・フランス協会からすると会員の規模が半分ほどですから、新潟・フランス協会の運営もより大変なことと存じます。

これからとの問題として、会員の高齢化が進み若人たちの会員の増強を図らないと限界になるのではと心配しています。これからも新潟の方々ともお互いの繁栄のため連絡を密にし、ご指導ご厚誼をいただけますようよろしくお願ひ申し上げます。

## 富山

富山日仏協会 会長 竹内 修

50年ほど前のこと、羽田空港の二階フロアは今から思えばかなり狭く、数件の売店が連なっていた。そこに面して送迎デッキがあり、飛行場の全てが見渡せた。売店の奥にあるチェックインカウンターを通れば、そこで出国手続きは実際に簡単に一括して出来るようになっていた。

私がヨーロッパ広域経済圏に於ける数理経済学の研究のため、羽田空港からパリのオルリー空港に向かったのは、大学を卒業した年の夏だった。この時が私にとって人生初の海外渡航だった。パリまでの所要時間は約18時間ぐらいだっただろうか。途中、アンカレッジで給油をして、北極圏の上空を通過した際には北極上空通過証明書が番号入りで各乗客に航空会社から配られた。

オルリー空港に到着後、私は人々に尋ねながら、どうにかシャトルバスに乗ってパリにたどり着いた。朝の9時頃だった。とにかく私は先ずは留学先のリヨンに行かなければならなかつた。そこで私は覚えたてのフランス語、「Je veux aller à Lyon」（私はリヨンに行きたい）を行かううごとに連発して助けを求めた。皆親切な対応だったが、どの返事も「バスで行きなさい」だった。いかに初の外国とは言え、リヨンがフランス中部に位置する町であることぐらいの知識はあった。それを「バスに乗って行け」とは一体どういうことなのか、遠く離れたリヨンがなぜすぐ近くにあるのか…私にはチンパンカンプだった。仕方なく半信半疑のまま教えられたバスに乗った。そして着いた所はまさしくリヨン駅と書かれた立派な建物の前であった。リヨン駅はリヨン、マルセユ方面への長距離列車が出るパリにある駅の一つだった。通りで出会った人たちは「バスでリヨン駅に行って、そこから列車でリヨンに行きなさい」と教えてくれたのだった。列車でリヨンの駅に着いてみると、そこは全く別の名前の駅だった。パリにパリ駅が無いように、リヨンにリヨン駅は無かつた。東京に東京駅、横浜に横浜駅があることが当たり前だった私にとっては実に奇妙な事実だった。中央集権の形が永い歴史と共に今に息づいているのだと納得した。私にとってこれが、「これぞフランス！」と思える最初の体験だった。

その後、「統計学の研究、及びマーケティング」の研究でパリ大学第5に再度留学をはたし、かなり長期に亘ってフランスの色々な知識を得た。私にとってフランスは「愛と文化と知恵の国」であると思っている。十数年前から美術家としての道も歩き始めたが、「愛と文化と知恵」を武器にこれからも精進したいと思っている。



第1回ニューヨーク展2016  
「金のことばとCアート展」  
オープニングパーティー（左写真）  
次回ニューヨーク開催は  
2017年4月12日～27日  
2018年にはパリ、ドヴァイを予定

## 長崎

在長崎フランス名誉領事 澤山 精一郎

私がフランス名誉領事を拝命して、20年余りが過ぎました。この間、フランス共和国と日本国は素晴らしい国際関係にあり、経済、文化など多方面に亘り、心から信頼しあえる両国であったと思います。

フランスの方々も日本をよく理解して頂き、また、日本人を好きでいてください、日本人も諸外国の中で、特にフランスの方がたに対する思いは特別なものがございます。

私ども、澤山家は、明治期より、長崎港にフランス海軍の軍艦が入港されたときからのお付き合いで、一世紀を超お付き合いがございます。また、長崎にございます教会群の半数以上はフランスの宣教師の方が建立された教会で、近い将来、世界遺産に登録されると思います。長崎とフランスの関係は、経済、文化、信仰、平和活動と多岐に亘り、今後もフランス、日本の架け橋の一つになり続けなければと思っております。

御地、新潟も古くから、諸外国との窓口を広げられており、形は違えれど重要な外交拠点地区であられるかと思います。

これからも、いろんな方面にわたり、フランス、日本の架け橋になれるよう長崎もお手伝い出来るよう頑張りたいと思います。

萱場名誉領事に於かれましては、国家功労勲章オフィシエ受章、誠におめでとうございます。

これからも、新潟地区と長崎地区が連携を含め、フランス共和国のお役に立てれば幸いでございます。



### 学校法人 新潟総合学園

〒950-0916 新潟市中央区米山3-1-46  
TEL 025-255-5522 FAX 025-255-5523

### 新潟日産自動車株

〒950-0881 新潟市東区榎町75  
TEL 025-273-3171 FAX 025-275-5225

### にいがた製菓・調理師専門学校

### えふろん

〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1239-3  
TEL 025-222-0545 FAX 025-229-3815

### 株新潟日報社

〒950-0088 新潟市中央区万代3-1-1  
TEL 025-385-7444 FAX 025-385-7446

Always Security OK

**ALSOK**  
新潟総合警備保障㈱

〒950-8633 新潟市東区小金町1-17-20  
TEL 025-274-1965 FAX 025-271-3445

### 新潟薬科大学

〒956-8603 新潟市秋葉区東島265-1  
TEL 0250-25-5000 FAX 0250-25-5021

### NCTS

New潟調理師専門学校

〒950-0906 新潟市中央区東幸町8-8  
TEL 025-244-2161 FAX 025-247-7928

### JAM

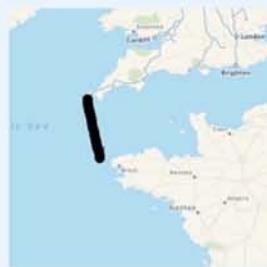
日本アニメ・マンガ専門学校

〒951-8063 新潟市中央区古町通5番町602-1  
TEL 0120-964-308

## 事務局通信

主な行事に関しては第1回発行分でかなり紙面を費やしましたので、今回の事務局通信はタイトルの「ゆめ」について昨今の話題を取り入れて書いてみました。キーワードは自然とテクノロジーです。私が自然の力をを使ったテクノロジーで第一に思い浮かぶのがヨットです。そしてフランスとヨットと、またヨットと新潟の関わりがあるのでないかと考えております。

ジュール・ヴェルヌトロフィーの  
スタート・ゴールライン



Trophee Jules Verne 優勝艇コース  
Vendée Globe 優勝艇  
L'est REPUBLICAN (写真転載)

### 【ジュール・ヴェルヌのゆめ】

まず最初のキーワードはジュール・ヴェルヌ、代表作はたくさんあります、今回は80日間世界一周です。1993年より始まったヨットレースで、写真のフランス ウエサン島とイギリス リザード岬の仮想ラインをスタート/ゴールとして、彼の作品にちなんで80日以内で無寄港、第三者の援助無しで行う世界1周レース「ジュール・ヴェルヌトロフィー」というヨットレースがあります。

第1回目は79日6時間15分56秒でゴールしましたが、第9回になる今回のレースは2016年11月にスタートして、40日と23時間30分30秒でゴールしました。平均速度26.51ノットでした。佐渡汽船が17ノット、ジェットフォイルが40ノットですから優勝艇の早さがわかります。しかも風だけです。

前述のレースにクルーの制限はありませんが、同じ時期に行われる「Vendée Globe」は一人で世界1周を無寄港で行うレースで、1998年に第1回レースが開催されたときは109日と8時間47分55秒でフィニッシュしています。2016年11月にスタートした今回のレースは74日3時間35分46秒まで時間を短縮しました。人類の夢とそれに向かう技術の進歩を感じますね。

この単独世界1周レースには日本人で白石康次郎さんも参加しましたが、南極海でマストが折れて無念の途中棄権を強いられました。この白石さんの師匠が新潟県出身の多田雄幸さんで、1982年にスタートした単独無寄港レースにおいてクラスⅡで優勝しました。私は当時現役でぱりぱりにヨットをやっていましたので、1980年代後半に多田さんが来港されたときに懇親会でお会いする機会があってとても感激しました。物静かでサックスをよく愛する方でした。

### 「海洋国家としてのフランス」?

前述の2種類のレースは何れも第1回目から優勝者はフランス人です。日本人にとって海洋国家というとイギリス、フランス、ポルトガルなどが歴史上浮かんできますが、フランスというとピンときません。しかしEEZ+領海の面積は世界でアメリカに次いで第2位のようですし、前号で留学生のジョナタン氏が説明してくれた海外に11の領土があるということで頷けます。彼の出身地レユニオン島にも行ってみたいですね。

またヨットの建造でもフランスは有名で「Bénéteau」という世界でも有数なメーカーがあります。この会社はナントから南西に100キロほど行ったCroix-de-Vieというところにあるようです。ナントをベースにマリンスポーツも計画してみてはいかがですか。

本年4月の総会で新しく高木会長が就任されました。今後もサポートをお願いする本間代表理事大変ご苦労様でした。過去の経験と志を活かして、あらたな夢に取り組みたいと思いますのでよろしくお願いします。

### 2016-17年 イベントカレンダー

2016

7.30㊁ ■ バスツアー：“モネ展”鑑賞&古民家見学

9.29㊁ ■ 新潟大学名誉教授

10.20㊁ ■ 新潟・フランス協会副会長 高木裕先生の  
11.24㊁ ■ フランス文学講座(全3回)

10.3㊁ ■ チーズソムリエ

三膳正俊先生のワインを楽しむ  
チーズのお料理講座

10.24㊁ ■ 秋の例会:~小山瑠美子ソプラノのタベ~  
ソプラノ 小山瑠美子氏、ピアノ伴奏 斎藤晴海氏

12.9㊁ ■ X'mas例会:シャンソンのタベ  
~文太郎が歌うシャンソン&クリスマス~

2017  
3.12㊁ ■ プチサロン:カフェからみえるフランスの今  
~最新グルメ事情から大統領選挙まで~  
株グラムスリー 坂本明氏

4.9㊁ ■ 総会:ナント市代表団歓迎会  
定時総会・成嶋志保ピアノのタベ

### 入会のお誘い

URL : <http://anfrance.com/>

年会費／個人会員 5,000円

学生会員 3,000円

法人会員 30,000円

申込先／事務局または各会員へ  
事務局：丸屋本店内

TEL・FAX 025(225)2424

《ANFカード特典利用》

フランス協会に入会していただくと、ANFカードをお渡し致します。そのカードを提示して、法人会員さま各社各店舗で特典が得られます。特典一覧(2010年2月14日現在)は新潟・フランス協会ホームページをご確認ください。ただし、サービス内容が変更の場合もございますので、各店舗にて最新情報をご確認の上、ご利用下さい。



### フェルミ工

〒953-0012 新潟市西蒲区越前浜4501  
TEL 0256-70-2646 FAX 0256-70-2647

### 藤田金属(株)

〒950-8588 新潟市中央区八千代1-7-20  
TEL 025-245-6666

ホテル朱鷺メッセ新潟



〒950-0078 新潟市中央区万代島5-1  
TEL 025-240-1888 FAX 025-241-0877

童心算匠



〒951-8065 新潟市中央区東堀通6-1038  
TEL 025-271-6111 FAX 025-225-5133

### (株)よね蔵

〒959-1232 燕市井土巻5-174  
フジビル2F  
TEL 0256-64-7432 FAX 0256-64-7955

### 吉田六左工門事務所

〒951-8136 新潟市中央区閼屋田町1-48  
TEL 025-265-6311 FAX 025-265-6312